

「中国は国際世論優先」*

増田 雅之

日本総領事館に亡命を求めた北朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の家族五人が、武装警察に連行されて二週間後、中国政府は五人の第三国移送に踏み切った。

中国政府の発表でも、日本の報道でも、中国が人道問題を優先したと言っている。しかし、中国政府が優先したのは、厳密に言えば、人道問題をめぐって高まった「国際世論」である。

総領事館に駆け込む家族をあからさまな暴力で排除する中国武装警官の映像が、世界中で流された。総領事館の安全を維持することも武装警察の役割であるが、彼らは「亡命者」で「不審者」ではなかった。

あからさまな暴力で治安を維持しようとする光景は、何も今回に限ったことではない。日常生活でも交通違反者や不審者にたいして、中国の公安当局が暴力的に排除するのをよく見かける。

瀋陽の事件は、経済発展の中で忘れがちになっていた、中国のそうした姿を改めて明らかにしたのである。

だからこそ、中国政府は第三国移送に際して独自判断を強調し、自国のイメージの回復を意図したのであった。日本政府の立場を考慮することはほとんどなかったと言ってよい。私はそう見ている。

* 『中国新聞』（広島）、2002年5月25日。